

7 平成26年度予算で行う主な事業は？

生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり

高齢者の多様な居住環境の整備

- 地域密着型サービスの整備
- 特別養護老人ホームの整備



防災機能の強化

- 防災行政無線設備の整備
- 防災拠点の整備(備蓄倉庫・マンホールトイレ)

消防力の総合的な強化

- 消防通信設備の整備
- 緊急消防援助隊活動拠点の整備
- 消防ヘリコプターの整備
- 消火用具の整備
- 消防団活動の充実強化



障害者の暮らしを支える取組の充実

- 地域就労援助センターの体制強化
- 就労支援ネットワークの構築
- 障害者通所施設の整備

予防接種による感染症予防の推進

- 新たな定期予防接種(成人用肺炎球菌と水ぼうそう)の実施



がん検診の取組の強化

- がん検診受診率の向上に向けた効果的な取組の構築



まち全体の耐震化

- 民間建築物の耐震化の促進
- 公共施設(市役所本庁舎等)の耐震対策の推進



健康危機管理体制の整備

- 新型インフルエンザ等発生時のための対策強化

子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり

認可保育所の運営・整備

- 26年度からの受入枠の拡大
→1,330人の受入枠拡大と保育所20カ所増
- 27年度に向けた整備
→1,540人分の受入枠拡大と保育所22カ所増

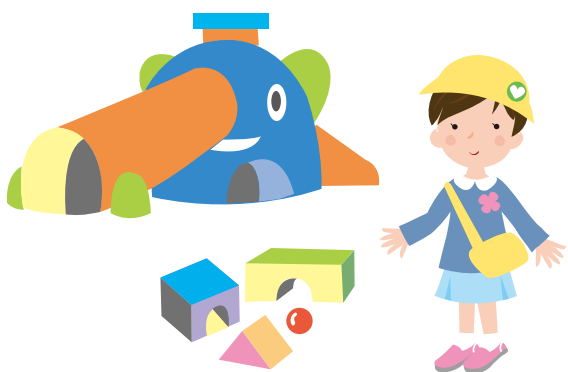
認可外保育施策の充実

- 川崎認定保育園の受入枠の拡大→900人分の増
- 保育料補助の充実
月額5,000円→月額5,000円・10,000円
・20,000円
(年齢と所得に応じた補助制度)



幼児教育の振興

- 幼稚園保育料等補助の充実
- 長時間預かり保育事業の推進
- 幼稚園の「認定こども園」への移行促進



中学校完全給食の導入

- 28年度の実施に向けた中学校給食実施方針の策定



きめ細やかな指導の充実

- 効果的な指導方法の研究



1人ひとりの教育的ニーズに対応した総合的な支援

- 児童支援コーディネーターの専任化
- 就学援助支給項目の追加
(中学生の部活動に要する経費)

地域ぐるみで教育を支える環境の充実

- 「地域の寺子屋」の開講など



市民生活を豊かにする都市基盤と環境づくり

魅力ある都市拠点の整備

- JR川崎駅北口自由通路等の整備
(29年度完成予定)など

連続立体交差事業の推進

- JR南武線尻手～武蔵小杉間の連続
立体交差化に向けた調査など

身近な地域交通環境の整備

- コミュニティ交通の持続的な運行の
ための支援強化など

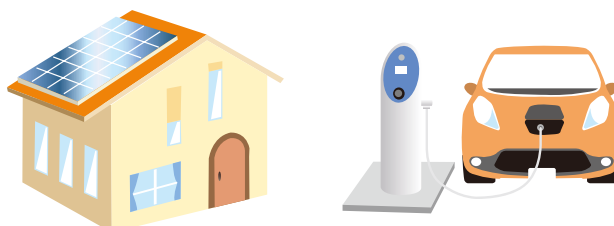


国際環境施策の推進

- 環境技術情報の共有・発信の取組

スマートシティ戦略の推進

- スマートシティに向けたモデル事業の実施



緑豊かな公園緑地の整備

- 等々力陸上競技場の改築
(26年度完成予定)など



完成予定イメージ

活力と魅力あふれる力強い都市づくり

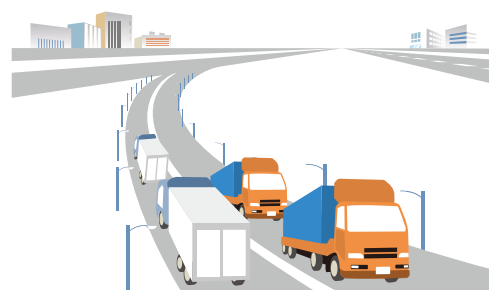
臨海部における国際戦略拠点の形成

- (仮称)ものづくりナノ医療イノベーションセンター
での企業支援
- 国際的なプロモーションや誘致推進による拠点形成
の推進
- 国立医薬品食品衛生研究所の移転整備の推進



移動や物流を支える交通機能の強化

- 臨港道路東扇島水江町線の整備



産業イノベーションの創出

- 新川崎・創造のもり地区での新たな施設整備に
向けた取組

誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくり

区の機能強化に向けた取組

- 区の新たな課題に即応するための予算の新設(各区500万円)

いきいきと風通しの良い市役所づくり

- 市民サービスの向上につなげるための人事評価制度の充実



区民車座集会の実施

- 市長が直接区民の方々から意見を聞く「区民車座集会」の開催



社会保障・税一体改革に係る本市の取組

急速に進展する少子高齢化の中、国民の誰もが安心して暮らせるよう、「年金・医療・介護・子育て」の4分野に使うことを目的に、平成26年4月1日から消費税率が8%に引き上げとなりました。川崎市では、この財源を効果的に活用し、社会保障の充実・安定化の取組を進めていきます。

消費税率の引き上げによる

川崎市の26年度予算における増収見込額 約26.6億円

財源として活用

待機児童の解消



国民健康保険等の低所得者に対する保険料軽減の拡大

